

北欧の旅から(5)

—ランドレース種豚を訪ねて—

県畜産課 多田昌男

19、分娩管理の方法

農家における分娩管理方法は次の方法で行なわれています。まず母豚は分娩予定2週間前から屋外のコロニー豚舎から屋内豚房に移され、分娩予定2日前から濃厚飼料も全廃し、水のみ給与します。これは分娩直後の乳房炎の発生防止、産後麻痺等を防止するために行なわれるものです。

分娩予定2時間前から仔豚の圧死を防止するため、分娩柵又は哺育用ケージ内に母豚を入れ、分娩後約1週間、この中で飼育されます。ケージ内には小さい飼槽、給水器が置かれます。スウェーデンでは一般に分娩監視は行ないませんが、農家によっては昼のみ監視する場合があります。

生れた仔豚は自力で温源を求めるうちに寝藁で身体がきれいに乾き、それぞれ乳を求めて飲んでいきます。臍帯はそのまま放置しますので、仔豚によっては1～2日臍帯を引いている場合があります。仔豚は分娩後半日位の間に上下8本の歯をペンチ様キバ切器で根本から切除します。ランドレースは特に狼歯(上下各2本)が強く、そのまま放置しますと、母豚の乳房を傷つけ、又仔豚間で主として両耳の後部を傷つけるおそれがあります。狼歯の除去については日本においても是非実施したいものです。

仔豚保温用の温源は赤外線ランプを使用し、冬期は500W、夏期は100W位の電球を用いていますが、北欧における豚管理の中で、ランプは必需品の1つとなっています。又農家によっては仔豚下痢防止対策として、殺菌灯を排糞場の上部に取りつけています。

20、母豚の管理

分娩の終わった母豚は、最初1週間は配合飼料を与えず、大麦、えん麦の粉碎したものを少量与える農家、或は最初の1日位は水のみ与え、分娩後24時間後から配合飼料を1日1匙程度与え、だんだん増飼いし、1週間で最初の普通飼料日量4～8匙に戻して行く方法を取っています。その後の哺乳母豚

には蛋白質飼料を多く与え、緑餌も充分与えます。豚に与える濃厚飼料は、大麦、えん麦等を粉碎して粉餌で与え、それに適量加水したものを豚が自分で混合して食べています。

乾乳母豚にはクローバー、カブ等の緑餌を多く与えています。飼料給与は朝7～8時、午後2～3時の2回とし、10時頃脱脂乳、午後1時頃緑餌をそれぞれ与え、豚房内の清掃は朝1回行ないます。

糞は1輪車で運搬する農家や、或は労力節約の大農家では、排糞用チェーンを3馬力位の電動器で動かして、排糞を堆肥盤へ自動的に運搬しています。このチェーンは排糞場とその床の下を回転させ、その1部に集糞用のツイタテをつけて舎外へ糞を除去するようにしています。半日ばかりで運搬する糞も、僅か数分で終るのでから労賃の高いスウェーデンでは大いに活用されています。このチェーンは1組の長さが20～30米で、設備費は17万5千円位を要します。



放牧時の土壌掘り返し防止用鼻環を付けられた成豚

冬期の防寒用として農家によっては、豚舎内へスチームをとおし、又夏期の防暑対策として直径40～50糧位の扇風機を天井に取付け、自動調整機により、常時室温を18～20度C以内にたもつよう換気に留意しています。

この地方におけるランドレース繁殖農家1戸当り

岡山畜産便り 1962.07

の飼育頭数は母豚 15 頭、種雄豚 2～2.5 頭で、年 2 回分娩させています。1 回平均仔豚育成頭数は 8 頭以上で、36 年は年平均よりはるかに良い成績を収めています。私の見た 30 戸の農家では季節的によかったためか、1 腹 12～14 頭哺乳中のものを多く見受けました。

なお乾乳母豚、種雄豚を放牧する場合は、土壤掘起し防止対策として鼻環を付けています。

21、子豚の管理

仔豚には生れたその日から腐植土とミネフィードを自由に食べられる仔豚用隔柵内に与えてやります。仔豚は日本のように分娩管理を行なっていないので、生後 3 週間の淘汰率が多くなっています。しかし人件費の高いためやむを得ない結果だと言っています。耳刻は生後 3 週間頃行ないますが、耳の中心にあける穴はなお 1 ヶ月後に行ないます。これは余り早くあけると再び穴がつむぐためです。しかし日本では耳刻の位置が北欧と異なり耳の中心にはあけないため、この心配は不要となります。種雄候補豚以外は去勢していますが、去勢の時期は、生後 3～5 週の間で、手術は総べて農家自身が行なっています。手術の方法は極く簡単で助手が保定し、衛者は安全カミソリの両刃を持って、消毒も結びも行わずに終わっています。しかし、かなり大きい育成豚については麻糸で結んでいました。消毒についてはスウェーデンには病菌がなく、創部が湿まらない方がよいので行なっていないと、どこの農家でも言っていました。後日獣医技術者にこの点を指摘したところ、どちらかといえば消毒した方がよいとの回答でした。日本のように汚染した国ではちょっと考えられないことです。

仔豚の離乳は生後 6～7 週位（長いもので 8 週）で行なわれていますが、その場合、子豚の發育状態によって期間を多少延しています。又生時小さい仔豚は肉用豚として 20 ㍗程度まで飼育した後、素豚として販売しています。繁殖豚としては、1 腹の生時平均体重以上の仔豚のみを用い、それ以下のものはと殺養豚用素豚として販売します。

22、飼料生産

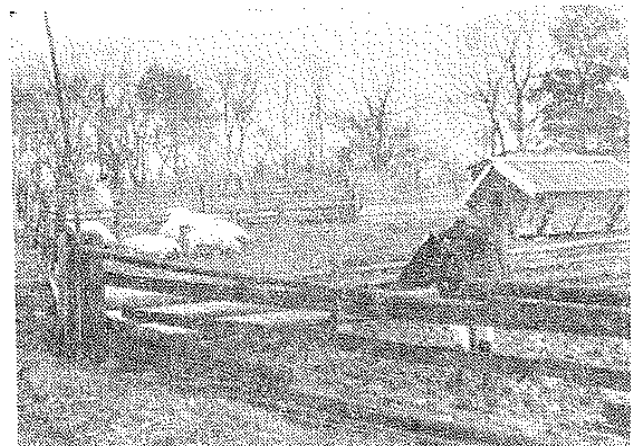
自給飼料の生産は日本においては、濃厚飼料以外が主体ですが、スウェーデンでは大麦、えん麦の実

取りがその殆んどを占め、乳牛等大家畜の牧草を主とした生産が次いでいます。ですから豚の濃厚飼料は小農家では殆んど自給し、大農家においては配合飼料として購入しています。

飼料作物としては、春牧草（禾本料が主体）を庭先等のトレンチサイレージとして埋草し、初冬から冬にかけての牛、馬、豚に利用しています。私が行った初冬には殆んどビートトップを与え、早い農家ではカブをルートカッターで細断して与えていました。馬鈴薯はこの国の澱粉質主食ともいべきもので、人が食べた後屑いもが与えられている程度でした。仔豚に対する脱脂乳給与は生後 3 週位から行なっています。

この外購入飼料として、丁度イカのシオカラ様の魚サイレージを国外から購入して繁殖母豚に少量ずつ与えていました。

23、デンマーク式豚舎と器具



コロニー豚舎のある運動場、隣には仔牛のコロニー牛舎と運動場がある

スウェーデンの豚舎はすべてデンマーク式を採用していますが、この豚舎の特徴は豚房と排糞場が区別され、豚房は常時乾燥し、排糞場の糞は毎日清掃することができ、いつも清潔に豚房内を保つことができます。又このため敷藁の消費量が少なくすみ、労力を節約することができます。

まず豚舎の構造についてみますと、「第 2 図」のように排糞場を窓側に設ける場合と豚舎の中央に設ける場合の 2 つの方法に大別することができます。窓側に設けた場合は、その外に運動場が附設され、豚が自由に入出りできるように開閉戸があります。中央に排糞場が設けられている場合は舎外運動場にコ

岡山畜産便り 1962.07

ロニー豚舎を設けている場合が多く、育成豚舎はこの様式が一般に多いようでした。しかし、1人で飼養管理する場合は中央通路の方がよく、前述のようにチェーンを用いて排糞を行なう場合は中央に排糞場を設ける方がよろしい。

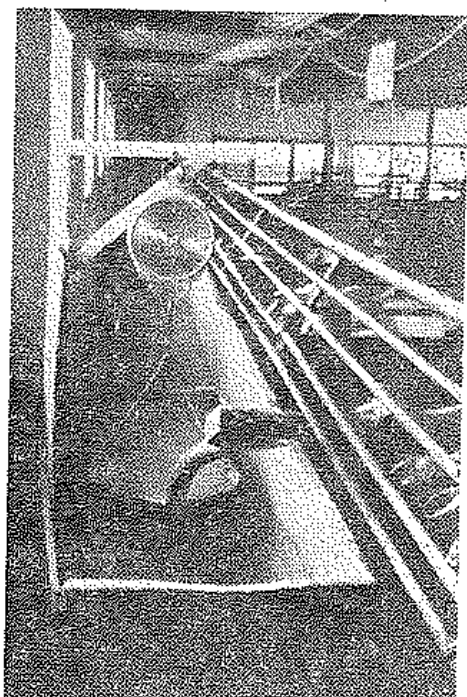
農協傘下に豚舎建設技術者組織があつて、ここが農家の豚舎建設指導を行なっています。ベンソン氏の説明と農家で実地に見た点から総合しますと、豚舎の排糞場の巾は豚が十分回れるように122~130糎は必要で、豚房床との高さの差は5糎位です。豚房の床は一般にコンクリートで行なわれていますが、時にはレンガ或は飼槽の前面30糎位をタイルにしています。タイルは床の磨滅防止のため30糎以内にとどめ、床の傾斜は排糞場出入口方向に5糎とり、排糞場内に設けた排尿口への傾斜は、例えば排尿口と他の排尿口との間隔が10米ある場合は、この2%つまり5米に2%を乗じた10糎の差をつけなければ尿の分離が完全に行なわれません。育成豚房の大きさは奥行3米、前巾最高8米のものもありますが、普通奥行2米、巾3米位に8~10頭位飼育しています。この場合前通路への出入口は設けず、1.2インチ程度のパイプを横に長く最高6段、途中で電牧を附設した場合は3段程度設けています。パイプの上下の間隔は要するに仔豚の大きさの程度によって加減

しています。農家によってはパイプの1本に水をとおり、最下部パイプから飼槽内に散水するパイプを附設し、粉餌給与直後適当に加水できるように労力節約を図っています。飼槽は直径15糎の土管様のセラミック(スレートとセメントの中間)半割りをコンクリートで埋設し、通路面を35~最高50糎、内部高を18~35糎にしています。飼槽は要するに酸化しないものであればよいわけですが、飼槽の巾と床からの高さは2対1が適当です。(例えば飼槽巾30糎の場合、豚が採食する側の高さは15糎)余り低く過ぎますと豚が足をつつ込むおそれがあります。ベンソン氏は最高20糎までにとどめるべきだといっていました。35糎以上のものも見受けられました。

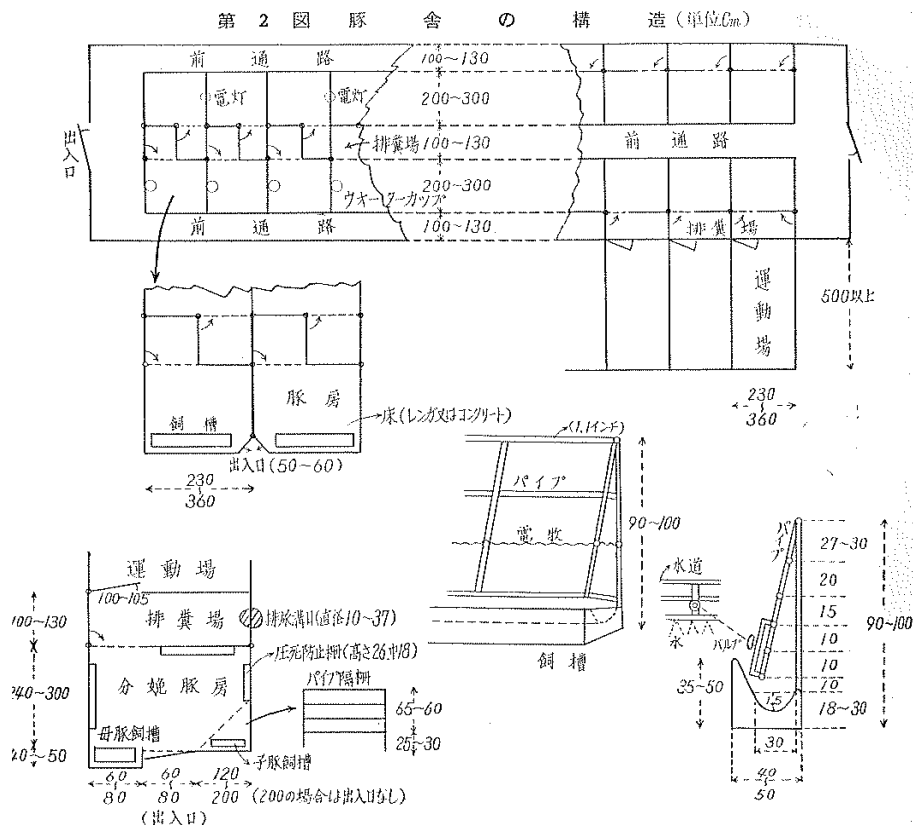
繁殖豚房の大きさは3米4方位が普通で、母豚と子豚の飼槽を分け、隔柵によって仔豚に保護を加え、赤外線ランプを温源としています。この場合仔豚のおれる隔柵の高さは25糎です。

豚舎の床から天井までの高さは3米位がよいといわれます。天井があまり低くすぎますとベンチレーターのため風が強くと送られ、豚が風邪を引き易くなります。肥育用豚舎では3米、母豚舎ではもう少し低くてもよろしい。

豚舎内の器具としては、哺育用母豚ケージ、自然種付用枠場、仔付母豚制限様式、飼料秤量器付一輪



飼料運搬車に付いた簡易スコップ利用秤量器



岡山畜産便り 1962.07

車等があります。

このほかタルゴール方式豚舎がありますが、この豚舎はギャロ（コウシの意味）というコンクリート製の板を傾斜地の上、又は尿溜の上に設けて、コウシの間から糞尿を下に落とす方法を採用したのですが、日本の様に湿度の高い所ではどうかと思われるので省略いたします。なお、豚舎内の電灯の平均照度は50ルクスがよいといわれます。

24、ランドレースの一代雑種と多交雑

ランドレース純粋繁殖農家は繁殖基礎豚生産が目的であるため、大ヨークシャーとの一代雑種の生産は行っていません。と殺用養豚家つまり肉豚生産農家においてのみ一代雑種が生産されていますが、これはF1はよい肉を生産するが、E2は能力が低下するためこのような方法をとっています。つまりF1のみの生産がより以上の効果をあげ、養豚経営を有利に導びくわけで、市場へ販売される肉豚は殆んど交雑したF1となっています。ランドレース（以下Lと記す。）と大ヨークシャー（以下Yと記す。）を交雑する場合、どちらが♂であっても♀であってもよいわけです。普通LYと記入した場合、左がL♀、右はY♂で交雑した場合を示します。

スウェーデンにおけるLとYとのF1の効果は次のようです。

- (1) 枝肉品質はL、Yと同じである。
- (2) ハムはランドレースがよいがパックアップはYがよい。
- (3) 仔豚が雑種強勢で強く、生後3週間の仔育ちもよい。
- (4) 分娩頭数多く、各個体の生長率がよい。
- (5) 各個体が分娩時大きく、産仔の個体も大きい。
- (6) 仔豚の生れた時の大きさは平均している。
- (7) 受胎、妊娠能力がよい。

ランドレースはデンマークが1番優れていることは広く知られていることですが、現在デンマークからは生体での輸出禁止を行なうとともに、F1のよいものを作って加工肉として輸出しています。特にデンマークランドレースはステーキ（腹部）が薄いのでよいといわれ、スウェーデンは少し厚いのが欠点です。

スウェーデンはF1を生産するとともに1部では次

の方法により交配を行なっています。この方法を多交雑といっていますが、F1よりも総ての条件が優れているとのことでした。飼養試験の結果からみますと、特に性機能関係、つまり受胎、妊娠能力が優れています。

25、大ヨークシャーについて

スウェーデンの大ヨークシャーは200万頭のうち25%を占めていますが、ヨークシャーは今までに近親繁殖が甚しく、現在は血液更新の時期になっているといわれます。農学校教授ジェラン・ミリーヌ氏はこの点について、「他系統を入れようと世界中で求めたが、完全に伝染病を持っていない豚を入れることができなかった。しかしカナダから少数ヨークシャーを血液更新用として入れたがモモの肉（フィンキヤーといい、スウェーデンではクリスマス用にこれを用いている。）が少ないので、現在このカナダ系統も国内に残っていないだろう。」と語ってくれました。要するにこの国の好みに合った大ヨークシャーは血液更新時期に到達しているわけです。

優れた大ヨークシャーは肉質が多く、背脂肪も少ないようですが、モモがランドレースより劣っています。種雄豚の体重は分りませんが、ランドレースの方が少々大きいようです。

第3図 多交雑の方法

